

令和4年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

【令和4年度 連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>(1) 入善漁業協同組合 排砂回数を増やすなどして、一回の排砂量は極力少なくし、目の粗い土砂の排砂を要望します。</p> <p>(2) 富山県漁業協同組合連合会 先日の説明会において出席漁業者から、より自然に近い形で排砂するためには、大量に堆積したときは1回の排砂量を少なくし排砂回数を増やした方が海域への負担は小さく、自然な回復が期待できるとの意見があった。排砂量が30万m³以下だと、30万m³以上と比べ海域への負荷が全く違うという意見も踏まえ、より自然に近い形での排砂となるよう検討いただきたい。</p>	<p>(1) (2) 排砂回数を増やすことは、1回の排砂量を減らすこととなりますが、排砂期間中の排砂可能となる出水の機会は限られますので、気象条件によっては、目標排砂量を排砂できない可能性が生じることから、当該年度最初の排砂基準を満たした機会に目標排砂量を排出する、現在の排砂方法となっています。</p> <p>粗い土砂の排砂は、現在取り組んでいる先行操作が有効であると考えております。</p> <p>先行操作を含めた排砂の方法については、学識経験者の専門的な知見により助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺ってまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>(3) 富山県漁業協同組合連合会</p> <p>排砂の「実施基準流量」及び「中止基準流量」の設定について、これまで見直しがされていなかったため、今年度は実施基準を満たさず排砂中止となり、大量の土砂が堆積した。堆積した土砂は海域への影響を考慮し、堆積後1年以内に排出することが望ましいとのことであることから、今後は実施基準や中止基準を見直し、土砂が堆積しないよう柔軟に対応していただきたい。また、堆積して1年以上経過した土砂はダムから排出しないようにしていただきたい。</p>	<p>(3) 堆積した土砂は早めに排出することが望ましいと思います。</p> <p>また、気候変動の影響等から、雨の降り方なども変わってきていることもあります。</p> <p>よって、「実施基準流量」や「中止基準流量」等について、排砂運用の工夫や改善等の余地がないか検討していきたいと考えております。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>(4) 入善漁業協同組合 ブルーカーボン事業などを活用した藻場造成を振興策として実施してほしい。</p> <p>(5) 富山県漁業協同組合連合会 先の説明会出席者も注目しているブルーカーボンについて、振興対策として排砂による藻場への影響調査と、県水産研究所と連携したより効果的な藻場保全対策並びに藻場造成対策の実施について検討いただきたい。</p>	<p>(4) (5) 今後も引き続き富山県水産研究所と連携して、下新川海岸での藻場保全の試験施工を実施してまいりますので、関連工事や各種の調査にご協力をお願いいたします。</p>

【令和4年度 連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(1) 細砂の堆積による河床上昇が、河口から上流11km付近まで急激に広がっており、この移動・除去を大至急対応頂きたい。</p> <p>連携排砂が原因であることは明白であり、鮭や鮎の遡上を妨げ、石を覆い隠すことで藻が生えず、住みづらい川に変えてしまっている。</p>	<p>(1) 黒部川は排砂のみならず、出水により土砂の堆積や侵食を繰り返しています。</p> <p>土砂の変動により治水や河川環境への問題がある場合は河道掘削や樹木伐採等の必要な整備を行って参ります。また、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、引き続き漁業者や学識経験者の意見を聴きながら整備に努めて参ります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
<p>内水面漁業 関係団体</p>	<p>(2) 連携排砂・通砂は細砂や浮遊泥により河川の濁りを引き起こし、魚類の生息と鮎の餌となる珪藻に重大な影響を及ぼしている。 排砂規模・時期の違いや、その他色々な観点からの調査・検証を試み、環境への影響が限りなく少ないやり方に変えていっていただきたい。</p> <p>(3) 連携排砂が実施されても、今まで同様『魚にやさしい川づくり検討委員会』を通して、黒部川の“幸を増やし”“環境を守り育む”活動を強力に推進して参りたいと考えておりますので、ご支援・ご協力を頂きたい。</p>	<p>(2) 連携排砂・通砂を実施する際は、土砂の排出に加え、降雨などによる出水もあることから河川の濁りなどが生じています。濁りの程度は排砂の規模やその時の条件等の違いにより変化があるものと考えております。 また、それらの影響に関する各種調査やより自然の出水に近くなるような排砂方法については、学識経験者の専門的な知見により助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺いながら行ってまいります。 引き続き調査へのご協力をお願いいたします。</p> <p>(3) 河川環境に配慮した整備を実施していく上は、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を伺いながら進めたいと思います。 引き続き、よろしくをお願いいたします。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(4) 連携排砂の実施対象時期を広げる検討がなされているようですが、5月の実施となりますと鮎やイワナ・ヤマメだけではなく、さくらますの成育や遊漁へも多大なダメージを与え、僅かに残る黒部川の魅力が消滅することになり、賛成できません。</p>	<p>(4) 5月の排砂実施には賛成できないというご意見はしっかりと受け止めて、その他の関係機関や団体のご意見も伺い、検討してまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(5) 現在、黒部川内水面漁業協同組合では、黒部川の復興『昭和の黒部川を取り戻そう』をスローガンに『SDG's』を推進しております。</p> <p>以下に、連携排砂に関する当組合の具体的な意見を記載しますので、ご検討賜りますようお願いいたします。</p> <p>①連携排砂の定義を見直すこと</p> <p>令和4年8月の連携排砂は基準流入量に達したため実施されたが、気象庁が出している天気予報通り短時間で降雨量が減り、中止基準流入量を下回ることによって中止せざるをえなくなった。</p> <p>途中で中止となったものの既に出し平ダム・宇奈月ダムの排砂ゲートは開放されており、ダム湖に溜まった大量の土砂が流れ出たことは周知の事実であり、一度でも排砂ゲートを開放した場合は連携排砂とするよう、定義の変更が必要である。</p>	<p>①排砂ゲートを開操作することで、排砂ゲート付近に堆積している細粒土砂の一部が流出することは事実としてありますが、これをもって本来の排出すべき土砂が排砂できるものではなく、自然流下方式によることで本来の目的である排砂が実施できると認識しています。</p> <p>このため、連携排砂実施機関としては、連携排砂の定義を、両ダム共に自然流下開始から自然流下完了までとしております。</p> <p>よって、令和4年度のように自然流下にいたらず途中で中止した場合は「連携排砂(中止)」と定義し、「連携排砂」とは区別して整理しております。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>②連携排砂実施基準に天気予報を加えること 令和4年8月の連携排砂の実施基準に天気予報が加えてあれば、実施できなかったと考える。 連携排砂を実施しても完了まで出来なかった場合、連携排砂にカウントしなくてよいという今の基準が悪癖を生んでいる。 一度、意思決定すれば『人・もの・金』が動き、仮に途中で中止でもしよものなら通常は大損害に繋がるが、ここではその常識が通じないのか。 黒部川の周辺住民はその常識をわきまえており、信頼失墜に繋がっていることを認識すべきである。 このような内向きな基準が横行している限り、住民の信頼は得られないものとする。</p>	<p>②排砂実施の判断は、実施基準流量はもとより、天気予報や気象情報などから降雨などの今後の見込等により判断していくことが重要であると考えております。 今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、実施してまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>③出し平ダムの流入土砂量が想像以上に多く、連携排砂だけに頼るのは既に限界にきている。 人為的な排除も並行して考えるべきである。</p>	<p>③連携排砂の運用にあたっては、出し平ダムは各年の目標排砂量と想定変動範囲を定め、利水機能を適確に維持しながら、排砂による環境への影響をできるだけ軽減するように、出水にあわせて連携排砂を実施してきています。</p> <p>連携排砂実施においては、出水による上流からの流入土砂量の増減にもよりますが、毎年の目標排砂量相当の土砂は、排砂できていると考えており、今後も引き続き連携排砂による運用を行ってまいります。</p> <p>引き続き、排砂が確実に実施できるよう努めてまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>④河床上昇や水質など、多大なデータを提示頂くが、その比較基準は連携排砂実施以前でないと意味をなさないと思われる。</p> <p>また、データ数値に変化がある、特に悪くなった場合は、その理由やその背景、更に改善策などをしっかり検証頂き、詳しく説明をお願いしたい。</p> <p>デジタルデータの裏付けとしてアナログ判断を挙げるのは如何なものか。</p>	<p>④河道の変化、環境調査結果等の各種調査結果の取りまとめについては、過去とのデータ比較等について工夫し、分かりやすくまとめるよう対処してまいります。</p> <p>また、調査結果について、特異な値が観測された場合は、調査・検証し要因を推定すると共にその対策についても検討し、ご理解いただけるよう説明してまいります。</p> <p>なお、これらのデータによる影響の有無は、実施機関で判断するものではなく、黒部川ダム排砂評価委員会にてご評価いただくものです。</p> <p>調査・検証、対策の検討においては、学識経験者の専門的な知見や助言・指導をいただきながら、対処してまいります。</p>

【令和4年度 連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
農業 関係団体	<p>(1) 近年農業は担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっております。</p> <p>そのため、担い手農家等は、水の必要な時期が以前と比べ長期間必要となっており、連携排砂による断水時期と農作業の関係に強く不安を抱いております。</p> <p>こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂の実施時期及び期間を検討していただくとともに、実施情報提供の更なる周知に努めて頂きたい。</p> <p>また、農作業の影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間が長期化しないよう検討願います。</p>	<p>(1) 雨の降り方の変化等を踏まえ、今後とも、関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂の実施時期が適切なものとなるよう努めてまいります。</p> <p>また、令和3年度から「連携排砂の体制・実施状況の情報提供の改善」として、Twitterによる連携排砂の体制・実施状況を伝達する取組や「連携排砂の予報」（可能性の高い・低い降雨日の情報）を2～3日前にホームページやTwitterで提供する取組も行っているところです。</p> <p>今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、分かりやすい広報、情報提供に努めてまいります。</p> <p>合口用水の取水停止時間については、関係各所と意見交換等を行い、短縮に向けた実現可能な改善策がないか引き続き検討してまいります。</p>